

「以民為天」が貫かれた朝鮮社会主義

アジア・チュチェ思想研究所書記長

ムケシュ・シャルマ

社会主義朝鮮の建国の父である金日成主席の生誕 110 周年にさいして、わたしは、「以民為天」と題して発言したいと思います。なぜなら、この言葉が金日成主席の回顧録『世紀とともに』に記されており、回顧録はこの思想でほぼ貫かれているからです。

金日成主席はつぎのように述べています。

『「以民為天」—人民を天のごとくみなす、というのがわたしの持論であり、座右の銘でもあった。人民大衆を革命と建設の主人として信頼し、その力に依拠するというチュチェの原理こそ、わたしがもっとも崇敬する政治的信仰であり、まさにそれがわたしをして、一生を人民のためにつくさせた生活の本質であった』

以民為天の思想は、歴史的発展における民衆の地位と役割を最大限に高めていくことを意味します。朝鮮人民はかつて国を奪われ、苦しい生活を強いられましたが、こんにちでは、朝鮮民主主義人民共和国の尊厳ある人民としての生活を謳歌しております。

朝鮮において、人民という言葉は、国や軍隊と関連する記念碑や建造物につけられています。たとえば、人民大学習堂、人民野外スケート場など、一例をあげることができます。

この言葉は、社会主義朝鮮において人民が尊厳ある生活をおくるための国家的な措置と関連しています。

朝鮮の執権党である朝鮮労働党や政府が実施している路線や政策は、人民が求める水準ですべてが人民に服務するようにするための路線であり政策です。

これは、朝鮮の法律にも反映されています。例えば、朝鮮には平等に関する法律があります。1950 年から 1953 年までの朝鮮戦争の時期に確立されたチュチェ思想にもとづく法体制もあります。

朝鮮では、1959年から全般的無料教育が全的に保障されるようになりましたし、1975年からは全般的11年制義務教育制度が実施されるようになりました。

金正日総書記は、金日成主席の思想を具体化し、現代朝鮮における懸案事項を解決しました。

金正恩総書記は、金正日総書記の思想と経験に学びながら、人民がいるところなら、どんな山間へき地でも訪ねていきます。

金正恩総書記は、朝鮮労働党創立70周年にさいしておこなわれた軍民パレードを前にしての演説のなかで、何回も「人民」という言葉を使いました。

ある世界のマスコミ報道によりますと、25分の演説のなかに、人民という言葉が97回使われていたとのことでした。

金正恩総書記は、人民が願うなら天の星までとって来るとか、靴底がすりへるまで働かなければならない、とか、話されています。

金正恩総書記の懸命な指導のもとに、朝鮮は、人民の社会生活のあらゆる分野を発展させています。自力更生、自強力を全面的に発揮することにより、すべての経済分野における生産力が増大するにつれて、人民の生活水準が確実に向上しています。

わたしは、チュチェ思想研究者は、朝鮮の制度がなににもとづいているかをはっきりと認識することができるかと確信しています。

わたしは、本日のセミナーに参加されたすべてのチュチェ思想研究者に謝意を表します。